

評価シート集計表

基本方針 1		総合評価
市民、事業者との連携を強化し、協働による取組みを進めます		B (3.27)
委員	評価	評価理由
委員A	A	達成できない項目はあったものの、全体的に積極的に市民、事業者へ情報発信をしたりしていた点が評価できる。
委員B	B	おおむね目標を達成できている。 1-1-1 時間の関係から動画を配信できなかったとあるが、別の方法で活用できているのかが気になる。 1-3-1 生ごみ資源化団体のなかで休止中という団体へのフォローが気になる。
委員C	B	市民との連携は、がんばってらっしゃると思います。 1-2-1の事業者が不足していると思い、Bとしました。
委員D	A	行政の取り組み部分は概ね計画通りということですが、市民などの協働の点で計画以上に実施できている点を評価しています。例えば、1-1-2の町田市3R市民リーダーの活動支援という点で、多くのイベントで3R市民リーダーが参画したという点は素晴らしく、1-2-2の大学と連携した取り組みも具体的な活動が進められています。さらなる行政の支援と市民協働が進むことを期待します。
委員E	B	指標として立てた活動回数を概ね超えることができたことは評価できる。 昨年も指摘したが、活動回数を目標として立てただけでなく、ごみ量自体の削減目標を示したうえで、活動の結果としてごみの減量や市民の意識改革がどの程度改善したかを測るチェック指標があるとよりよいと感じる。
委員F	B	1-3-3のSNS等の情報発信について、2026年4月1日から市内全域で容器包装プラスチックの回収がはじまりましたが、実際に回収した物の中に混入していた不適物の実例を紹介したらどうでしょうか。既にSNSで発信した情報には禁忌品の紹介はありますが、市で想定していなかった不適物もあると考えられるので紹介した方がよいと思われます。
委員G	B	(1-1) 4月から全地域で開始した包装容器プラスチックの啓蒙活動は評価できる。 (1-1-2) 特に3R市民リーダーの活動は大変効果があった。 (1-2) 各団体との連携は目標以上の結果を出せて大いに評価できる。 (1-3-2) SNSによる情報発信は積極的に実施しており評価できる。特に容器包装プラスチック分別収集については大きな成果があった。
委員H	B	指数と目標値に関して概ね目標達成に至っていると思われ、B評価としました。 1-3-1に関して、ゴミ減量サポーターと地域町内会、自治会等の団体との連携が必ずしも取れていない為、リサイクル広場が開けない場合があるのではないかと推察します。今後も双方に働きかけを望みます。
委員I	A	市民との連携による取組、事業者・各種団体との連携による取組が推進されていますので評価できます。
委員J	B	1-1に関してはほぼ目標値を達成していると判断。 1-2に関しては目標値を上回っており達成していると評価できる。 1-3に関しては1-3-2「事業者が行う取組の支援」のうちフードドライブがどの程度効果を発揮しているのかに着目した。目標と実績数がほぼ同数で達成とも言えるのだがこの目標値は当初からの申請事業者数なのだろう。それが24なので目標値をプラス1の25にしているのだと思われる。そこを監査・査察した実績と考えられ、フードドライブ自体が市民や事業者の理解を得て増加しているという期待に答えるものでない。
委員K	B	目標を概ね達成しており、一般廃棄物の減量や資源化に向けた協働等の地道な取り組みは理解できるため、「B」とした。 しかし、これらの取り組みが市民等、特に高齢者に十分に浸透しているとは言えず、さらなる取り組みの強化が必要である。 また、(1-1-1)の子供向け出前講座については、教育委員会、校長会などに働きかけるなどして、実績を積み上げてほしい。

評価シート集計表

基本方針2		総合評価
家庭系ごみの減量を進めます		B (2.64)
委員	評価	評価理由
委員A	C	家庭ごみ減量のために努力をしており、プラスチックごみの分別が始まったばかりで安定した結果が出ていないということは理解するが、目標値に達していない項目も少なからずある。
委員B	B	さまざまな機会・方法を使って市民への周知に努めていることは大変評価できるが、目標を達成できなかった項目についてはその原因を追及をしていただきたい。
委員C	B	「2-2-1生ごみの発生抑制」について、市民への啓発・呼びかけはがんばってらっしゃると思います。ただ、一方で市民への呼びかけだけでは限界があると思い、Bとしました。
委員D	B	概ね計画通りの施策が行われているものと評価します。△評価であるプラスチック関連は、計画策定時と現状の社会状況や、地域状況によるところが大きいと判断いたします。
委員E	B	目標値としては立てられていないが、2024年度に引き続き家庭系ごみの総排出量は速報値でも減量が確認できており、方針に対する結果が現れていることを評価する。基本方針1でも指摘の通り、まず総量の削減目標を立てるとともに、各指標が減量に寄与できているかチェック機能が必要であると思料する。
委員F	C	2-2-2.容器包装プラスチック分別協力率が2024年度から目標値を下回っている為、取組内容を検証し効果的になる為の改善が必要と思われます。
委員G	B	(2-1) 生ごみの更なる削減に向けて、ごみ処理機の補助制度は大変評価できる。 (2-2-2) 事前の説明会も実施し分別方法を周知できたことは評価できる。
委員H	B	プラスチックごみの減量と資源化に関しての達成率が低いのですが、そもそも社会全体がプラスチックに過剰に依存している事が要因であると思います。よって市の取り組み結果からB評価と致しました。
委員I	C	重点施策のプラスチックごみの発生抑制、資源化の推進を強化していただきたいです。
委員J	B	2-1に関しては目標値に対する実績値という観点からはAと評価できるが、TABETEに着目すると問題があると思われた。TABETEの登録は進んでいるのだろうか（おそらくそうではないだろう）。あくまで「町田市の実践」の一つとしてこんな方法でもごみ減量を頑張っていますというアピールと理解する。 2-2, 2-4に関してはAと評価。2-3に関しては筆者もシモティーを利用しようとしたがアクセスや利便性が悪く断念している。
委員K	C	(2-2) プラスチックごみへの取り組みが不十分と思われるため、「C」とした。 容器包装プラスチック分別の市民意識について、既収集地域の南地区および2026年度新収集地域に周知されているとはいえない。協力率が前年度以前と比較しても進展していない。取り組み内容を検証し、2026年度の全市実施に向けて、分別協力率向上の成果を出して欲しい。

評価シート集計表

基本方針3			総合評価
事業系ごみの減量を進めます			B (2.73)
委員	評価	評価理由	
委員A	B	事業者に向けて指導や講習会、情報提供を行い、実際に事業系ごみの削減という形で効果が出ている点は評価できるが、フードバンク関連で足踏みがみられる。	
委員B	B	おおむね目標を達成できている。 3-2-2の実績値の低さが目立つ。特に飲食店で発生する生ごみ（食べ残し）については市民への啓発も重要となるため、お店にとってお得感があるような発信ができる とよい。	
委員C	B	町田市の産業構造について勉強不足なので、コメントできません。すみません。	
委員D	B	概ね年度事業計画に沿った活動が行われており、目標値に近い項目が多いといえます。なお、3-2-2の各項目は、重要な内容ではありますが、事業者により対応できない場合も想定されます（持ち帰り容器（mottECO）など）。	
委員E	D	方針1,2と同様、方針の直接的な評価基準となるごみ量の減量目標値などが上位指標として立てられておらず、下位指標であるべき市庁舎に限定した排出量削減指標や、各種取組の活動回数ばかりが並べられており、方針として評価のしようがない。アクションプランの体系自体を見直す必要がある。 速報値では事業系可燃ごみの単純な排出量は前年度比微減となっているが、ひとりあたりの家庭系ごみ排出量を算出する際に参照する市の人口にあたる、市の事業者数や従業者数が示されておらず、実際に効果的に減量できているか分からない。	
委員F	B	3-1.指標①「指導の回数の目標値」に対して2023年度以降は十分な実績回数です。指標②「講習会の回数」が目標値を上回る成果があったのは評価するが、大規模事業所24事業所の立入検査は分かりましたが、スーパー、コンビニ、大手飲食チェーン店等の立入検査の記録が確認できなかったため、可能な範囲で取組を強化して欲しい。	
委員G	B	(3-1) 大規模事業所への指導、講習会の実施など積極的に実施され評価できる。 (3-2) 市庁舎から排出されるごみのうち、紙類の混入が減少していることは評価できる。更なる混入削減を進めて欲しい。 (3-2-2) フードバンクに対する情報提供団体数は苦戦しているが、地道な活動を期待したい。	
委員H	B	3-1-1の指導と講演会の回数は共に目標値に達している事でB評価とします。 3-2-2指導②の食べきり協力店については、きわめて難しい取り組みと考えます。むしろ、家庭ごみと同様に、有効なエネルギーや、資源に代える方法を拡充した方がよろしいかと思えます。	
委員I	B	重点施策の事業系ごみの適正排出に向けた取組が推進されていますので、評価できます。	
委員J	C	3-1、3-2,に関しては年々実績値が目標値を上回っており評価できるが、3-2-2に関しては目標値に対して実績値が低く評価できないと考えD。2019年の計画自体に問題があったのだろう。フードバンクに持参できる食品・商品は賞味期限2か月以上あるものと聞いている。その後「子ども食堂」などに利用されるなど使い道を考えると納得できるが果たしてそんな食品を（十分利用できる）皆持参するだろうか。mottECOはナフサの影響を受けない紙袋が主体だと言われる（市の回答）が、であれば一体どんな料理を想定しているのか。	
委員K	B	事業系ごみの減量や資源化への各種の取り組みは理解でき、概ね評価できるため、「B」とした。引き続き、事業者と連携し、事業者が協力するための誘因を含め、さらなる減量を推進するよう強化して欲しい。	

評価シート集計表

基本方針4			総合評価
環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます			B (2.91)
委員	評価	評価理由	
委員A	C	新しいごみ処理施設やバイオガス化施設が安定して稼働している点は評価できる一方で、資源化施設の整備や収集体制の見直しについては、なかなか進捗がみられない。	
委員B	B	資源化施設の整備に時間がかかっているが、その間に収集体制の見直しやあらたな資源化品目の検討など、できることから取り組んでいることについては評価したい。	
委員C	B	市は概ねできることをがんばっていらっしゃると思います。ただ、高齢化社会を迎えた4-2-1の収集体制は悩ましいところです。よってBとしました。	
委員D	C	計画通りの項目が多く、適切な施設維持、管理が行われていると評価します。4-1-3など新施設整備は様々な要因があると考えます。しかし、4-2の記述のうち、週5日収集については、先延ばしとなっているという評価となります。極力延長が無いよう進めていただくことを望みます。	
委員E	B	各指標について一定の進捗が見受けられると評価する。	
委員F	B	4-1-1指標②について、目標値は1つで75%となっていますが、実績値は硬質プラと小型家電に別れています。このままでは達成しているか未達成か分からない為、目標値も硬質プラと小型家電に分けた方が分かりやすいと思われます。	
委員G	B	(4-1) 発電効率、資源化率の選別制度、共に目標を達成しており評価できる。 (4-1-2) 発電量は目標を達成できた。今後はリチウムイオン電池による処理施設への影響を最小限にすべく検知システムの精度を上げる等の策を継続検討して欲しい。	
委員H	B	既存施設の維持管理また新規施設の整備などについては、昨今の経済状況からしても大変厳しい環境に置かれていると言わざるを得ません。各々の取り組みについてB評価といたします。	
委員I	B	重点施策の環境に配慮した新しいごみ焼却施設等の整備、運営が推進されていますので評価できます。	
委員J	A	ごみ焼却施設の見学会に参加しいろいろ詳しい説明を受けごみの安全で安定的な焼却について理解を深めることができた。本審議会に参加してこうした体験もできたことは有意義だった。もっと多くの市民に参加していただきたいと思っている。 4-1、4-2、4-3に関してはA。	
委員K	B	廃棄処理施設が概ね安定的に稼働しているため、「B」とした。資源化施設の整備については、計画どおり着実に進展されたい。	

評価シート集計表

基本方針5			総合評価
社会的課題への対応を強化します			B (3.45)
委員	評価	評価理由	
委員A	A	持ち去り行為対策については目標値には届いていないものの、実際に持ち去り行為が減ってきている。また、社会的課題に全般については着実に対応している。	
委員B	A	パトロールは時間を費やすが、不法投棄、持ち去りなどへの効果は大きい。今後も継続していただきたい。	
委員C	B	概ねがんばってらっしゃると思います。	
委員D	A	概ね計画に沿って、指標も目標値を達成していると判断できます。また、行政単独の取り組み部分はB評価ですが、市民との協働での美化活動関連の実施、個別職員の皆様による、各種活動回数が多くなっています。また、SNSについて、各種活動を報告することで認知を深めているものと評価します。	
委員E	A	有事の際の受け入れ検討など、一定の成果が見られる。引き続き方針通りの取り組みを期待する。	
委員F	B	5-3-2不法投棄防止対策の推進の指標①に2025年度実績値198回とあります。このなかで不用品回収業者の発見及び注意を行ったことはあったのでしょうか。5-3-1,2では成果があったのか読み取れませんでした。	
委員G	B	(5-1) マニュアルを改訂し職員行動マニュアルの検証迄出来ており評価出来る。 (5-1-3) 大変重要な取り組みであり評価できる。一自治体で対応出来るものではなく「8市連携市長会議」を強化し対応することを期待する。	
委員H	B	5-2のふれあい収集について<庁内関係部門と意見交換>とありますが、さらに広めて社協や高齢者支援センターなどの外部組織と協力しあっていく方法もあるかと思っています。また、少額で「ちょっとした困りごとをお手伝い」といった活動もあるようです。	
委員I	B	重点施策の災害時等のごみ処理に関する計画の見直しが推進されていますので評価できます。	
委員J	A	5-1、5-2、5-3に関してはA。 5-3-4の持ち去り防止のパトロール件数の減少は逆に良い結果であると判断した。市民の税金をパトロール強化の為に使われるのは避けたい。不謹慎だが「不用品をそのまま」きれいに持ち去られるのであればそれこそリユースにも繋がろう。シモティーが十分機能しない現状ではここは大目にみて良いだろう。	
委員K	B	目標を概ね達成し、社会的課題への対応について、地道に取り組んでいることが評価できるため、「B」とした。しかし、災害時等への取り組みが市民等に十分に浸透しているとは言えず、さらなる取り組みの強化が必要である。	